

良質な天然水

2025・7・18 重枝 一郎

私学の社会的使命は、「建学の精神の具現化」であることは言うまでもない。しかし、多くの私学では「建学の精神」が額縁の中に飾られ、普段使いがなされていないような気がする。普段使いがなされていない理由として、多くの建学の精神が、創立当時の社会的状況を反映し、創立者の高尚な理想を掲げており、抽象的であることが考えられる。本校では、このような状況に陥らないために「毎朝の礼拝」があると思っている。

「建学の精神」を例えるなら、雲の上にそびえる高峰の頂である。そして、生徒の学びが、その頂へ挑戦する登山になる。私たちは、女学院らしい個性的な全人格教育を展開していく。登山開始に際しては、まず生徒たちと登山の目的である「山頂の素晴らしさ」を共有し、登る途中では、目標を見失わないようにする。それが毎朝の礼拝であり、日常の大半を占める教科の授業になる。

この目的としては、本校には、スクールミッションとスクールポリシーがある（本校の学校 HP 参照）。これは本校だけではなく、他校にもある。ただ公立学校は、県や市が定めている教育方針に沿っていなくてはならない。万人に対して公平な標準的教育を行う責務を負う。一方、私学は、個性的教育を展開する。だからこそ、私立学校には個性的教育が強く求められる。

ある人の言葉だが、「公立学校は、誰でも安全に飲める、徹底的にろ過した水道水であり、無味無臭であることが求められる。しかし、私立学校は、個性のある天然水でなければならない。好む人には絶大に支持されるが、好まぬ人は飲まなくてもよい。**私立学校は良質な天然水**であることが肝要である」と言っていた。本校は、没個性に陥ることなく、「個性豊かな教育」を育む環境にしていかななくてはならない。これが私立学校としての矜持を保つということになる。

ただ「個性豊かな教育」と言っても、これまた実感を伴いにくいかもしれない。中1から高3までいる生徒の共通哲学になっているだろうか。このようなことも学習評価と同じように、段階的に評価する目を持たなくてはならない。

今時代はAIが当たり前になった「After AI」の世界に入ろうとしている。その世界では、仕事の内容や組織作りが再構築されると言われる。そのため、「AIに何ができるか」という視点を起点に生徒の未来も考えていかななくてはならない。

AIが10人分の仕事を一人でこなすことも絵空事ではない。その社会に進む今の生徒たちにどんな学習環境を用意するのか、どんな学び方をさせていくのか、「After AI」の時代に求められる能力を私たちは意識しなくてはならない。思いつくまま書くと、「決める力」「自分らしさ」「感性」「問いの設定力」「リーダーシップ」「メンバーシップ」・・・生徒のために私たち教師も変化が求められる。

先週の金曜日2限目、新開先生が職朝で案内していた音楽科のゲストティーチャーの「音の講座」に参加させてもらった。とてもおもしろく、大きなたし算になった。このように本校では、天然水的な出会いがある。先生たちは、ぜひチャンスを逃さないようにしてほしい。「人生はたし算」。

2025年度授業公開ありがとうございました。来校者数は中学94名（昨年度63名、高校71名（昨年度60名）、合計165名（昨年度123名）でした。